

審査の結果の要旨

氏名 穴 沢 良 子

本研究は、看護専門職が国際的に発信される専門文献を読むために、オンライン機械翻訳（MT）がどの程度有用であるのについて知るため、看護学文献を用いたオンラインMTの訳出文評価方法および看護職（看護教員）による訳出文評価とオンラインMTの利用状況の調査と考察を試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. 既存のMT評価基準（構文正確度、理解度、および特異語正訳率）の信頼性を知るため、著名な看護学の国際誌から論文抄録を抜粋し、インターネット上で提供されている4種類のオンラインMTシステム（Cross Language、Google Translate、Bing Translator、BizLingo）を用いて日本語への訳出文を評価し結果、妥当な信頼性が得られた。
2. 各オンラインMTシステムを比較したところ、とくに理解度と特異語正率でGoogle Translate(GT)がもっとも優れており、有用なシステムであると考えられた。
3. 信頼性が明らかになった理解度の評価基準を用いて、看護職250名を対象にGTによる看護学文献抄録の訳出結果を評価してもらったところ、GTの訳質は最低限許容できる程度であったことが分かった。また、原文の特徴（ワード数、未知語の有無）が訳出文評価に影響を与えていたことから、MT開発者側による改善の余地が示された。
4. 研究対象者の73%がオンラインMTを利用した経験を持っていた。言葉の壁を感じる頻度が少ない人の方がオンラインMTの利用頻度が多いことが分かった。また半数が役に立つと答えており、利用の仕方は単語単位の意味を調べる、おおよその意味を掴むための目的で利用していた。これらの所見から、語学力の程度や利用方法によってMT利用効率性が左右される可能性が考えられた。
5. 多言語での可能性を知るため、韓国語－日本語についても同様の調査を行った結果、日本語と構造的に類似する韓国語－日本語の訳質は英語－日本語より有意に優れているといえ、実際に役立つ可能性があると考えられた。

以上、本論文は、看護職が国際的に発信される看護・医療情報にアクセスする際に発生する言葉の壁について、インターネット上で利用できるオンライン機械翻訳という技術を利用して、言語面での支援を得ることができる可能性について検討し、機械翻訳訳出評価方法、有用であると考えられるオンライン機械翻訳システム、看護職におけるオンライン機械翻訳による訳出評価結果および利用状況を明らかにした。本研究は、今後の機械翻訳技術の看護分野への活用を追究するための出発点であり、看護実践及び研究にとって大きく貢献できると考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。